

The Ninth JSME-KSME Thermal and Fluids Engineering Conference (TFEC9) 開催報告

Vice Chair 東北大学 丸田 薫
 Secretary General 慶應義塾大学 深渕 康二

第9回日韓熱流体工学会議 (The Ninth JSME-KSME Thermal and Fluids Engineering Conference (TFEC9)) は、2017年10月27日（金）夕方、沖縄県那覇市内でのWelcome Receptionに始まり、沖縄コンベンションセンター（沖縄県宜野湾市）にて30日（月）まで開催されました。台風直撃という悪天候の中、ご参加くださった参加者の皆様に厚く御礼申し上げます。

今回の会議は、10月末に2週連続して台風が襲来するという異例の状況の中での会議となりました。会議の前週末に超大型の台風21号（ラン）が通り過ぎ、もう台風は来ないだろうと思っていたところ、10月25日（水）になって台風22号（サオラー）発生および沖縄本島への上陸可能性の報告を受けました。すぐさま実行委員会執行部で台風対応に関する基本姿勢が協議され、それを受け、1人あたりの講演時間を短縮して2日間で全ての講演をこなす「短縮スケジュール案A」を作成し、同日19時に発表予定者および事前登録者全員に状況報告とともにメール配信し、万一の事態に備えて頂きました。その後もなかなか台風の予想進路が定まらなかったため、1.5日および1日で全ての講演をこなす「案B」、「案C」を作成し、さらに、上陸時間によって異なる計5つのスケジュールを準備し、状況の変化に応じていつでも出せるようにしておきました。

次第に雨風が強まりつつある27日（金）の夕方、かりゆしアーバンリゾート・ナハでのWelcome Reception（写真1）は予定通り始められたものの、丸田（Vice Chair）からの開会の挨拶の最中に参加者のスマートフォンが一斉に鳴り出しました。一部地域に対する避難警報でした。幸いにもこの日はWelcome Reception会場はまだ暴風圏内には入らず、参加者の皆さんには沖縄料理や鉄板焼きなどボリュームのあるブッフェを充分に堪能して頂けたことだと思いますが、翌日の28日（土）は台風上陸のため沖縄コンベンションセンターが閉館となり、会議は丸1日お休みとなりました。その後もなかなか暴風警報の解除時刻の見通しが立たなかつたのですが、沖縄コンベンションセンターとの緊密な連絡を経て、28日（土）の15時に、その翌日から会議を再開することを決定し、無事29日（日）の朝から会議を再開することができました。韓国側ChairのMan Young Ha先生（釜山大学校）および日本側Chairの武居昌宏先生（千葉大学）によるOpening Addressに始まり、上述の「短縮スケジュール案A」にしたがって2日間で全てのセッションをこなし、熱工学部門、流体工学部門それぞれの表彰式や、優秀講演表彰の審査や英文ジャーナルの特集号（JTSTおよびJFST）特集号の推薦も、全て執り行うことができました。



写真1：Welcome Reception（10/27(金)、かりゆしアーバンリゾート・ナハ）の様子



写真2：講演室の様子（左）と九州大学 高田保之先生の基調講演（右）

このように、最後まで開催が危ぶまれた会議となりましたが、Plenary LectureとしてSang Woo Joo先生（嶺南大学校），福西祐先生（東北大学），高田保之先生（九州大学）の3名の先生方から基調講演を頂き（当初は4件の予定でしたが、Hyung Hee Cho先生（延世大学校）は台風のため残念ながらご到着になれませんでした），学術講演540件（うち10~20件程度は残念ながら台風のため到着できなかったと推測されますが、公式には全員発表扱い），参加登録者751名（うち事前登録729名、当日登録22名）と、非常に多くの皆様にご参加いただきました。Welcome Receptionの実参加者数も約300名、Banquetの実参加者数も約550名と、過去最大規模の日韓熱流体工学会議となり、大盛況のうちに終えることができました（写真2）。ご参加・ご協力いただきました皆様方には、心よりお礼申し上げます。

本会議では、オーガナイザの皆様のご尽力により、熱工学部門から17、流体工学部門から12、両部門合同で2、合計31のオーガナイズドセッション(OS)，および3つの一般セッションを11室のパラレルセッションで開催しました。台風によって急きょ短縮されたスケジュールにもかかわらず、多くの参加者の方々に柔軟に対応して頂き、特に大きな混乱もなく終えることができました。セッションをまとめていただきましたオーガナイザの皆様、座長の皆様、急きょ代理で座長を引き受けて下さった参加者の皆さま、そして何よりも講演時間を少しづつ削ることにご協力いただいた講演者の皆さまに、改めて御礼申し上げます。

10月29日（日）のセッション終了後、部門賞および一般表彰贈呈式がとり行われました。熱工学部門の4つの功績賞を始めとする各賞が、第94期熱工学部門長である北海道大学藤田修先生から授与されています。永年功績賞は東京工業大学の岡崎健先生、国際功績賞は韓国KAISTのSang Yong Lee先生。さらに研究功績賞は東北大学の小林秀昭先生、技術功績賞は田崎豊氏（元日産自動車、現芝浦工業大学非常勤講師）がそれぞれ受賞されました。また熱工学部門業績賞は東京工業大学の店橋護先生が受賞されています。部門一般表彰では、愛媛大学の野村信福先生、名古屋工業大学の保浦知也先生が熱工学部門貢献表彰を受けられています。授賞式の様子や受賞各氏の笑顔は、本ニュースレターのNo.83（2017年12月号）でご覧いただけます。



写真3：Banquet（10/29(日), ラグナガーデンホテル）の様子（大阪大学 梶島岳夫先生ご提供）

同日夕方より、講演会場に隣接するラグナガーデンホテルにて Banquet が開催されました（写真 3）。まず、スペシャルゲストとしてミス沖縄の町田まあち様より流暢な英語で歓迎のご挨拶を頂いた後、日本側・韓国側 Chair および Vice Chair による泡盛の鏡割りに続き、韓国側 Vice Chair の Deog Hee Doh 先生（韓国海洋大学校）による乾杯のご発声で Banquet が始まりました。Banquet では沖縄料理をふんだんに取り込んだコース料理に加え、ミス沖縄との写真撮影、泡盛飲み比べ、琉球衣装レンタル、エイサー グループ「風之舞（かじま～い）」の迫力あるエイサー、そして全員が参加しての大エイサー大会など、参加者の皆さまにおかれましては Banquet も十分堪能して頂けたのではないかと思います。

次回の第 10 回日韓熱流体工学会議（TFEC10）に関しては、Closing Session においてアナウンスさせて頂いたのみで会議開催中には十分にアナウンスできませんでしたが、TFEC10 は 2021 年に韓国で開催される予定となっております。また、関連する国際会議としては、2019 年 12 月 13 日（金）～17 日（火）にハワイのマウイ島にて第 2 回環太平洋熱工学会議（The Second Pacific Rim Thermal Engineering Conference (PRTEC 2019)）が、熱工学部門の主導（Co-Chair：店橋護先生（東京工業大学），Secretary General：深渕）のもと開催されますので、今のうちから日程をスケジュール帳に書き込んでおいて頂けると嬉しく存じます。

最後に、第 9 回日韓熱流体工学会議（TFEC9）の開催準備から当日の対応にわたってご尽力いただいた Secretary の元祐昌廣先生（東京理科大学）および太田匡則先生（千葉大学），現地での一連の柔軟な対応に際して学生さんを総動員してくださった琉球大学の屋我実先生、瀬名波出先生、石川正明先生、座長確保のために走り回って下さった若手「臨時実行委員」の皆様、アルバイト学生（琉球大学、東京理科大学、慶應義塾大学）の皆様、準備段階はもちろん会議開催中も絶えず変わる状況に対してホームページの更新を行って下さった飯田将雄様（こうなん技術サービス），そして実行委員会執行部と一緒に慎重かつ迅速な問題解決に全力を注いで下さった日本旅行の寺田江梨奈様、本間恒志様、および沖縄コンベンションセンターの知念祐介様に改めて感謝申し上げます。